

# 研究実施のお知らせ

【湿布使用の実態調査研究（医師調査）】

2021年5月20日 Ver.1.1

## 研究課題名

医療費削減に資する“湿布依存”の実態調査研究

## 研究の対象となる方

アンケートモニター登録している医師約 500 名。

## 研究の目的・意義

医師である皆様は、外来および入院診療の中で、湿布を処方されることが多くあると思います。しかし、その多くが、患者さんからの強い希望があり、その希望に沿う形でおこなわれていることが多いのではないのでしょうか。

湿布は、炎症鎮痛作用のあるテープ剤で、関節痛や関節炎に対する対症療法として、患者さんおよび医師に広く受け入れられ、使用されています。一方で、湿布の薬材料は 1020 億円以上にのぼり、調剤医療費の約 2%を占めます。

湿布は鎮痛消炎作用を持ち、急性炎症への有効性は高いと考えられますが、一般的には炎症がおさまれば使用を中止します。炎症が長期間続く病気もありますが、炎症が長期間続く病気でなくても、湿布を長期使用している場合があります。湿布は、内服薬に比べ副作用が少ないと思われがちであることから、患者さんは医師に処方をもとめやすく、医師は、医師-患者関係を大切にするために、患者の求めに応じて処方をする人が多いと思われまます。そこで、医学的な有効性とは別に、湿布を張っていることで安心感を得て、症状改善と感じている「湿布依存」患者がいると考えました。

具体的には、湿布を使用されている皆様のなかに、「湿布がないと不安」と感じ、いわゆる「湿布依存」状態になっている方がいるのではないかと考えました。そこで本研究では、慢性期を「3 か月以上」と定義し、3 か月以上の湿布の連続処方について、医師の皆様へ、実態を教えてくださいたいと思います。

将来的に、本研究の結果から、湿布処方を必要最小限に抑えることができれば、国民医療費の適正化につなげることができると考えています。

## 研究の方法

インターネットを利用したアンケート調査です。モニターとして登録されている皆様の中で、参加にご同意いただける方のみにアンケートに回答していただきます。

ご回答いただいた調査結果は、ID が付与され、匿名化されたデータのみが、パスワード付きのファイルとして、(株) インテージリサーチストレージサービスを介して島根大学医学部救急医学講座の研究責任者のもとに提供されます。

収集したデータは、(株) インテージ、(株) インテージリサーチのサーバー、および島根大学医学部救急医学講座内の外部から容易にアクセスできない PC に保管します。PC にはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限し、特定の研究者により解析を行います。この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を特定できる情報を使用することはありません。

### 利用する情報の項目

アンケート調査に記載されている項目、およびインテージリサーチ社から提供されるモニターの基本情報（年代、性別等）

### 研究の期間

2021 年 05 月 13 日～2022 年 03 月

### 研究組織

この研究は

調査主体：島根大学医学部救急医学講座 研究責任者 佐藤利栄

調査実施機関：(株) インテージリサーチ  
が行います。

### 情報の利用停止

本研究におけるアンケートデータ利用差し止めのご希望は、インテージ キューモニターサポートデスクまで、お問い合わせフォームにてご連絡ください。また、お申し出は、2021 年 9 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

### 相談・連絡先

相談、疑問などのお問い合わせは、インテージ キューモニターサポートデスクまで、お問い合わせフォームにてご連絡ください。